

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の江東区の状況について【小学校・義務教育学校（前期課程）】

令和6年12月9日
指導室

1 調査目的

義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校・義務教育学校
第6学年児童
(3,962人実施)

3 調査方法・内容

- (1)児童に対する調査
- ①教科に関する調査
(国語、算数)
主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題。
 - ②質問調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
- (2)学校に対する調査
- 学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査実施日

令和6年4月18日(木)

5 教科に関する調査（国語、算数）の結果の概要

＜小学校・義務教育学校（前期課程）＞

国語・算数

太字ゴシック (網掛け)：全国・都ともに上回ったもの
太字ゴシック：都のみ上回ったもの

・令和6年度

	国語		算数	
	正答率	計算値	正答率	計算値
江東区	73	104.3	72	105.9
東京都	70	100	67	100
全国	67.7	96.7	62.5	93.2

・参考（令和5年度）

	国語		算数	
	正答率	計算値	正答率	計算値
江東区	72	104.3	70	104.5
東京都	69	100	67	100
全国	67.2	97.4	62.5	93.3

各教科の調査結果について

【国語】

- 「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」問題の正答率は、国63.8%、都68.9%に対し、本区72.1%と国、都より高い正答率だった。
- 「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題の正答率は、国56.6%、都56.4%、本区59.8%と国、都より高いものの、全体的に低い正答率だった。

【算数】

- 「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる」問題の正答率は、国70.0%、都78.3%に対し、本区82.6%と国、都より高い正答率だった。
- 「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」問題の正答率は、国31.0%、都37.2%、本区42.7%と国、都より高いものの、5割を切る低い正答率だった。

6 江東区長期計画の指標との関連（ ）内は令和5年度の数値

指標名	目標値 令和6年度	令和6年度		
		江東区	東京都	全国
全国学力学習状況調査で都平均を100としたときの区の数値	107	105.1 (104.4)	100	95.0 (95.4)
自分にはよいところがあると思う児童の割合	87%	83.3% (81.4%)	84.5% (83.6%)	83.1% (83.5%)
人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合	96%	94.8% (94.6%)	94.9% (94.9%)	95.9% (95.9%)

7 児童質問調査の結果の概要

○ 学校生活について

「学校に行くのは楽しいと思う」と回答している児童の割合は、国84.8%、都84.3%、本区83.7%（令和5年度比 国-0.5ポイント、都+0.1ポイント、本区+0.6ポイント）である。前回調査から肯定的な回答が微増している。

○ 自己肯定感について

「自分にはよいところがある」と回答している児童の割合は、国84.1%、都84.5%、本区は83.3%（令和5年度比 国+0.6ポイント、都+0.9ポイント、本区+1.9ポイント）である。国や都と比較すると若干低い数値であるが、前回調査と比較すると肯定的な回答が増加している。

○ いじめについて

「どんな理由があってもいけないことだ」と回答している児童の割合は、国96.7%、都95.9%、本区は95.5%（令和5年度比 国-0.2ポイント、都+0.1ポイント、本区+0.6ポイント）である。前回調査から肯定的な回答が微増している。

○ 授業におけるICT機器の活用について

「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」で週3日以上と答えた児童の割合は、国59.5%、都64.3%、本区は70.6%（令和5年度比 国-2.9ポイント、都-4.4ポイント、本区+0.2ポイント）であり、国や都の数字を大きく上回っている。

8 こうとう学びスタンダードネクスト・ステージとの関連（ ）内は令和5年度の数値

質問項目	江東区	東京都	全国
5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	82.7% (78.1%)	81.8% (78.3%)	81.9% (78.8%)
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか	86.2% (81.1%)	85.7% (81.5%)	86.3% (81.8%)

1 調査目的

義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

中学校第3学年生徒
義務教育学校第9学年生徒
(2,506人実施)

3 調査方法・内容

(1) 生徒に対する調査

① 教科に関する調査 (国語、数学)

主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題。

② 質問調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

(2) 学校に対する調査

学校における指導方法に関する取組や人的・物的教育条件の整備の状況に関する調査

4 調査実施日

令和6年4月18日(木)

5 教科に関する調査（国語、数学）の結果の概要

< 中学校・義務教育学校（後期課程） >

国語・数学

太字ゴシック (網掛け) : 全国・都ともに上回ったもの
太字ゴシック : 全国または都のみ上回ったもの

・ 令和6年度

	国語		数学	
	正答率	計算値	正答率	計算値
江東区	62	101.6	57	100
東京都	61	100	57	100
全国	58.1	95.2	52.5	92.1

・ 参考（令和5年度）

	国語		数学		英語	
	正答率	計算値	正答率	計算値	正答率	計算値
江東区	73	101.4	56	103.6	53	101.9
東京都	72	100	54	100	52	100
全国	69.8	97.0	51.0	94.4	45.6	87.7

各教科の調査結果について

【国語】

○「目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる」問題の正答率は、国81.4%、都83.7%に対し、区84.1%と国、都より高い正答率だった。

○「文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる」問題の正答率は、国36.3%、都39.1%に対し、区40.8%と国、都よりも高いものの、全体的に低い正答率だった。

【数学】

○「等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる」問題の正答率は、国52.5%、都57.8%に対し、区60.8%と国、都より高い正答率だった。

○「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」問題の正答率は、国25.9%、都28.8%、本区27.1%と全体的に低く、都よりも低い正答率であった。

6 江東区長期計画の指標との関連 () 内は令和5年度の数値

指標名	目標値 令和6年度	令和6年度		
		江東区	東京都	全国
全国学力学習状況調査で都平均を100としたときの区の数値	105	100.8 (102.5)	100	93.7 (95.7)
自分にはよいところがあると思う生徒の割合	80%	82.8% (79.0%)	83.4% (80.1%)	83.3% (80.0%)
人の役に立つ人間になりたいと思う生徒の割合	93%	93.4% (93.2%)	93.9% (93.4%)	95.2% (94.6%)

7 生徒質問調査の結果の概要

○ 学校生活について

「学校に行くのは楽しいと思う」と回答している生徒の割合は、国83.8%、都83.0%、本区82.2%（令和5年度比 国+2.0ポイント、都+1.4ポイント、本区+-0ポイント）であり、前回調査と増減がないが、国や都の数値を下回った。

○ 自己肯定感について

「自分にはよいところがある」と回答している生徒の割合は、国83.3%、都83.4%、本区は82.8%（令和5年度比 国+3.3ポイント、都+3.3ポイント、本区+3.8ポイント）である。国や都と比較すると低い数値であるが、前回調査と比較すると肯定的な回答が増加している。

○ いじめについて

「どんな理由があってもいけないことだ」と回答している生徒の割合は、国95.7%、都94.7%、本区は93.2%（令和5年度比 国+0.2ポイント、都+0.1ポイント、本区-0.7ポイント）である。前回調査から肯定的な回答が減少している。

○ 授業における ICT 機器の活用について

「1、2年のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」で週に3日以上と答えた生徒の割合は、国64.4%、都68.1%、本区は62.4%（令和5年度比 国+3.3ポイント、都+2.2ポイント、本区-8.4ポイント）であり、国や都の数値を下回り、前回調査より大幅に下回った。

8 こうとう学びスタンダードネクスト・ステージとの関連 () 内は令和5年度の数値

質問項目	江東区	東京都	全国
1・2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	77.9% (78.1%)	80.6% (79.4%)	80.3% (79.2%)
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか	83.7% (79.0%)	85.5% (80.1%)	86.1% (79.7%)